

[成果情報名] ブドウ「巨峰」無核化処理におけるストレプトマイシン液剤の併用効果

[要約] ブドウ「巨峰」無核化処理に、満開10日前のストレプトマイシン液剤花房浸漬処理を併用すると、無核果率が高くなる。特に、結果枝長が短い場合でも、安定して無核果を生産できる。

[キーワード] ブドウ、無核、ストレプトマイシン液剤

[担当] 長崎県果樹試験場・生産技術科

[連絡先] 電話 0957-55-8740、電子メール s26700@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 果樹

[分類] 普及

[背景・ねらい]

満開後 2回または 1回の植物生長調節剤処理によるブドウ「巨峰」の無核栽培が徐々に県内に普及しているが、無核果率が低い事例が見受けられる。ストレプトマイシン液剤により無核果率向上を図る。

[成果の内容・特徴]

1. ストレプトマイシン液剤処理（200ppm 花房浸漬）を併用することで、無核果率は短い結果枝のバラツキが少なくなり、高くなる（図1）。
2. 満開10日前のストレプトマイシン液剤処理を併用すると、満開後の処理回数にかかわらず無核果率は高くなる。また、果実品質は同等である（表1、表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 無核栽培では樹勢が弱いと無核果率や果粒肥大が劣る。基本的に短しょうせん定により長い結果枝を発生させ、樹勢を強く保つ。明らかに樹勢が弱すぎる場合は、無核栽培しない。
2. ジベレリン及びホルクロルフェニユロン液剤の処理時期は適期を逃さないように留意する。

満開後 2回処理：

1回目 満開時～満開 3日後 ジベレリン12.5ppm果房浸漬

2回目 満開10～15日後 ジベレリン25ppm+ホルクロルフェニユロン 5ppm果房浸漬

満開後 1回処理：

満開 3～ 5日後 ジベレリン25ppm+ホルクロルフェニユロン10ppm果房浸漬

[具体的データ]

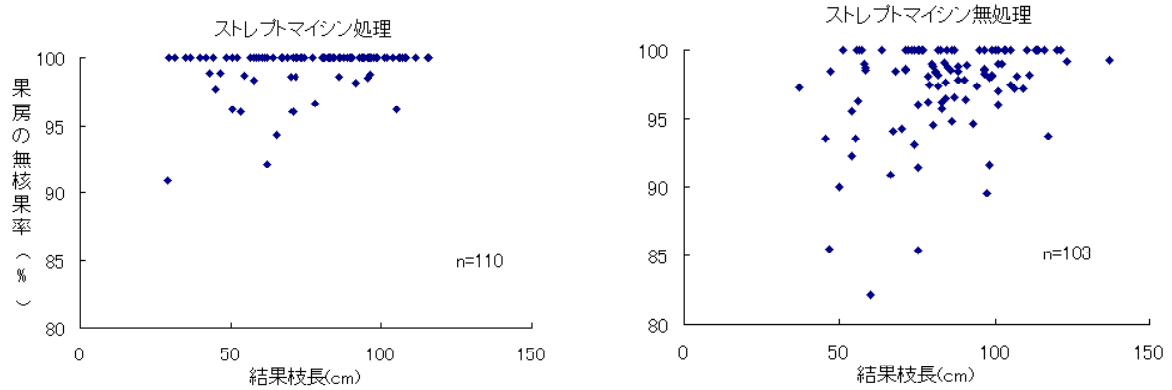


図1 ストレプトマイシン処理と満開後 1回無核化処理時の結果枝長別無核果率 (2005)

表1 ストレプトマイシン処理と満開後 2回無核化処理時の無核果率及び収穫時の果実品質 (2004)

満開10日前	満開後処理時期と内容 ^z		結果枝長 ^y (cm)	無核果率 ^w (%)	着粒数 (粒/房)	果粒重 (g)	果皮色 ^x	糖度 (Brix)
	2日後	14日後						
—	GA12.5	GA25+F5	98.1	92.3	21.0	12.8	6.3	18.4
S200	GA12.5	GA25+F5	107.1	99.7	23.4	13.2	6.5	18.2
有意性 ^v				*	ns	ns	ns	ns

^z S: ストレプトマイシン液剤、GA: ジベレリン、F: ホルクロールフェニユロン 数字はppm
果房浸漬処理 満開は 5月20日

^y 枝長調査5月17日

^w 無核果率調査 7月 5日 (摘粒前の摘房果房)。着粒数、果粒重、果皮色、糖度調査収穫時

^x 黒色系ブドウのカラーチャート

^v *は 5%水準で有意差あり nsは有意差なし

表2 ストレプトマイシン処理と満開後 1回無核化処理時の無核果率及び収穫時の果実品質 (2005)

満開10日前	満開後処理時期と内容 ^z		結果枝長 ^y (cm)	無核果率 (%)	着粒数 (粒/房)	果粒重 (g)	果皮色	糖度 (Brix)
	5日後							
—	GA25+F10		85.0	97.3	50.4	10.5	5.5	17.3
S200	GA25+F10		78.4	99.4	46.6	10.2	5.5	17.6
有意性 ^w				*	*	ns	ns	ns

^z 満開は 5月20日

^y 枝長調査 5月16日

[その他]

研究課題名: 新整枝法における落葉果樹管理作業の軽労化と多収技術の開発

予算区分: 県単

研究期間: 2002~2007年度

研究担当者: 谷本恵美子